

第 12 回中四国 MIST 研究会を開催して

今回の中四国 MIST 研究会は、第 14 回日本 MIST 学会と共同開催という形で、学会第一日目の 6 月 28 日（金曜日）に開催させて頂きました。本研究会は中西一夫学会長たっての希望で、メディカルスタッフのみを対象とした研究会にして第 14 回日本 MIST 学会のメディカルスタッフセクションという形で学会プログラム内で開催してほしいとのことでしたので、今回のテーマは、“メディカルスタッフのための MIST 研究会”とさせて頂き日本 MIST 学会のプログラムに組み込んで開催させて頂きました。メディカルスタッフのみを対象とした研究会はまったく初めての試みであったため、当初はどうか案じていましたが、最終的な参加人数は 82 名と過去最高のメディカルスタッフにお集まりいただき盛大に研究会を終えることができました。ご存知のとおり、中四国 MIST 研究会ではこれまで中西一夫先生を先頭にメディカルスタッフを対象としたイベントを数多く行ってきました。これまでの地道な活動が身を結んだ結果であったように思います。

ここからは、第 12 回中四国 MIST 研究会で行われたプログラムを順にご報告いたします。

まず、一般演題からのスタートとなりました。おかげさまで、中四国地域の施設を中心に日本全国津々浦々から 18 演題のご発表を頂戴いたしました。最優秀演題賞は岩井整形外科病院：鈴木将広さん『腰椎側方進入椎体間固定術(LLIF)に用いる完全側臥位ガイドの有用性』、優秀演題賞は香川県立中央病院：大岡南月さん『チーム・ビルディングで行う当院での脊椎手術（前後合併術）』、香川大学医学部附属病院：宮下祐紀さん『術中経頭蓋刺激運動誘発電位モニタリングにおける臨床工学技士の関わりについて』の 3 演題が厳正な審査の結果、表彰されました。一般演題に参加の皆様、積極的なご発表と活発なご討議を頂きまして誠に有難うございました。



（最優秀演題賞受賞の鈴木看護師：向かって左）

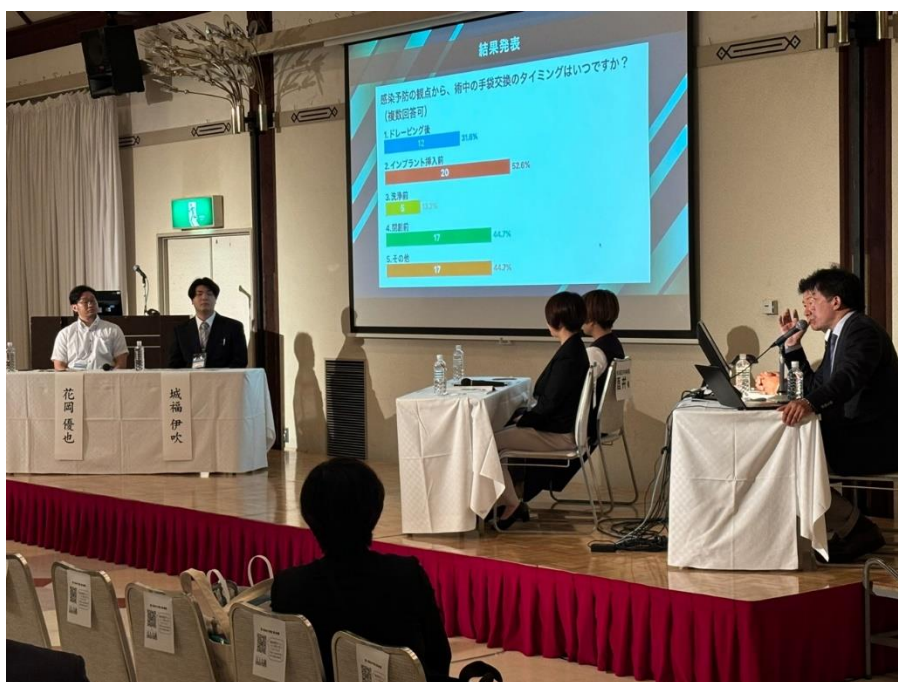


(優秀演題賞受賞の大岡看護師：向かって左)



(優秀演題賞受賞の宮下臨床工学技士：向かって左)

一般演題の後は昼食までの期間、メディカルスタッフワクワク会議というシンポジウムを開催しました。このセッションは、百人会議の薬師寺先生監修のもと自分のスマートフォンをネット環境に接続する会場参加型のシンポジウムとさせて頂きました。徳島大学の酒井紀典先生と岡山医療センター手術室看護師古池康弘さんに座長を務めて頂き、中国・四国地方から4名の手術室看護師（島根大学：伊藤千怜さん、香川県立中央病院：酒井香余さん、徳島県立三好病院：城福伊吹さん、広島大学：花岡優也さん）に登壇頂き、肥満患者に対する術中対策や術中感染対策について熱い論議を展開して頂きました。百人会議によるネット環境を利用した初のシンポジウムということもあり、演者、会場ともに初めは若干の戸惑いがありましたが、百人会議のネット画面が直感的でわかりやすいこともあり操作に慣れるのが早く、最終的には会場からのコメントもどしどし会場画面に上がるようになり、会場一体型のシンポジウムが展開されました。全く新しい感覚の非常に興味深いシンポジウムとなりました。



(メディカルスタッフワクワク会議の会場風景)



(左から、花岡看護師、城福看護師、古池看護師、酒井看護師、伊藤看護師、酒井先生)

ランチョンセミナーでは、種田憲一郎先生（国立保健医療科学院）にチーム STEPPS の真髓についてお話し頂きました。会場を巻き込んでの非常に盛り上がった素晴らしい講演でした。



（左から種田先生、菅野先生：座長、東北医科薬科大）

午後は、第14回日本MIST学会中西一夫会長から兼ねてよりご推薦のあった3名の講師陣に講演を頂戴致しました。講演のテーマは、手術室スタッフのチームビルディングを題材に、各病院の取り組みについて詳しく解説頂きました。詳細は以下の通りです。山口紀子さん（昭和大学：認定看護師教育センター）『手術チームで力を発揮する看護師を育てる』、武内未来子さん（洛和会丸太町病院：看護部）『手術室看護師とCEとの連携で織りなす手術室チームビルディングについて』、原田亜理沙さん（春陽会中央病院：看護部）『私達に出来ることはしてみる！～最高の手術チームを目指して～』。いずれの講演も、看護師教育を中心とした非常に内容の濃い各講師の特色がふんだんに盛り込まれた素晴らしいものでした。



（左から 中西会長、原田看護師、山口看護師、酒井看護師（座長）、武内看護師、生熊）

その後は、中四国 MIST 研究会恒例のハンズオンコース（脊椎骨盤固定：デピューシンセス、PLIF：帝人ナカシマ、頸椎 PS＋椎弓形成プレート：メドトロニック、XLIF：ニューベイスブ）を行い合計 50 名程度のメディカルスタッフの参加を頂き、熱気溢れるハンズオンコースになりました。ご協力頂きました企業の方々にはこの場をお借りして御礼申し上げます。

全日程が終了した後は、メディカルスタッフのみで行う懇親会が開催され、各病院間の情報交換が行われました。



（懇親会参加者による集合写真）

今回の第 12 回中四国 MIST 研究会は、第 14 回日本 MIST 学会との共催ということもあり中西一夫会長のたつての希望でメディカルスタッフのみを対象とするという初の試みの中での開催となりましたが、全国津々浦々から 82 名というこれまでにない多くのご参加をいただき大盛況の中、全日程を終えることができました。また、研究会を通して、脊椎外科、特に MIST 手技に対するメディカルスタッフの興味やそれに対する取り組みは以前に比べると非常に強くなっているように感じました。MIST 学会として引き続きメディカルスタッフに対するイベント開催を強く希望する次第です。

最後に、この度の研究会開催にあたり携わっていただいた全てのスタッフの皆様には深く御礼申し上げます。

第 12 回中四国 MIST 研究会 当番世話人

第 14 回日本最少侵襲脊椎治療学会（MIST 学会）副会長

香川県立中央病院 整形外科

生熊久敬 拝